

事後評価シート

調査研究課題名	外国人観光客に係る統計情報のあり方に関する研究
担当者	総括主任研究官 河田 守弘 主任研究官 日原 勝也 研究官 蹴揚 秀男
当初目標と目標達成度	観光立国の実現に向けた施策の推進に資することを目的に、外国人観光客に係る統計情報のあり方に関して、日本の外国人観光客に係る既存統計及び海外における外国人観光客統計の現状の整理とともに、今後我が国で整備すべき統計情報の基本的イメージと克服すべき課題・問題点の検討を行った。この結果、今後の観光統計整備に向けて、既存統計の問題点及び統計整備の基本的方向等を取りまとめることができた。
調査研究内容の妥当性	訪日外国人観光客に係る統計情報については、既存統計で不足している情報、定義等に係る国際的整合性などに関して必ずしも十分には調査研究されておらず、今後の統計整備に向けての基本的方向や望ましい役割分担、検討すべき項目等を提示することができた。
調査研究の仕組みの妥当性	学識経験者、経済・観光関連団体、地方公共団体及び省内関係部局等からなる「外国人観光客に係る統計情報のあり方に関する研究会」を設置し、的確な意見を受けながら調査研究を進めることができた。
成果と活用	研究成果を対外的に公表するとともに、観光統計の制度設計や調査実施など今後の国土交通施策の検討材料として役立てる。
その他	PRI Review2004 年秋季号に掲載し、関係者に配布予定。また、「外国人観光客に係る統計情報のあり方に関する研究会」の額賀座長が研究成果をプレスに投稿予定。
意見	